

令和4年度



学校だより  
夏の臨時号

令和4年7月20日

# かわかみ

横浜市立川上小学校

横浜市戸塚区秋葉町203-2 電話 811-9345 FAX811-5961

明日から夏休み ～家庭・地域とともに子どもたちの自立を促す～

学校長 堀部 尚久

「With コロナ」3回目の夏を迎えています。4月7日（木）（一年生は4月6日入学式）に始まった川上小学校の本年度の学びづくり生活づくりも、前期前半を終え、いよいよ明日から39日間の夏休みを迎えます。長期休みを前にして、全国的に感染症拡大傾向にある状況が懸念される毎日ですが、教室での子どもたちの会話からは、夏休みに楽しみにしている予定や計画が数多く聞かれています。子どもたちにとっての夏休みは、期待感に満ち、心弾む想いが膨らむリフレッシュタイムとなることを願うばかりです。

前期前半を終えるにあたり、各学級では様々な活動を振り返り、自分たちの学びや生活のありようを考える機会をもち、できるようになったことや分かるようになったこと、これから頑張ることや挑戦することなど、一人ひとりがめあてに基づく振り返りを行いました。過日の個人面談では、担任を通して、そうした一人ひとりの子どもたちの育ちの様子やこれからの支援・指導の方向性、さらに期待している姿についてお伝えいたしました。今後、夏休み明けの前期後半の教育活動を経て、10月初旬の前期末には、その後の子どもたちの育ちの様子を見つめたいと、**「あゆみ」**という形で改めてお伝えする予定です。

さて、本校では、この夏休みも夏季水泳学習はありませんが、一部の学年では、栽培している植物の観察を予定しています。また、7月30日（土）に秋葉小中学校の校庭で行われる「秋葉町 夏まつり」に出演を依頼されている「特別合唱クラブ」の練習も行う予定です。7月17日（日）本校校庭で行われた「前田町内会夏まつり」では、60名近い5・6年生有志の子どもたちが「ソーラン節」をまちの皆さんに力強く披露し、3年ぶりに子どもたちが夏の地域主催行事に参画する機会をいただきました。今夏は、8月21日（日）に、本校校庭で連合町内会主催事業も予定されています。子どもたちのこうした「まち」の皆さんとのかかわりは、子どもたちがまちとの繋がりを強く意識できる機会になるものと考えます。保護者の皆様には、こうした活動、取組に子どもたちが関心をもって元気に参加できるように、日々の体調管理とともに温かい励ましや労いのお声掛け等、背中を押していただくご支援を引き続きお願いいたします。

子どもたちにとっての夏休みは、各教科や領域などの学習というよりも、家庭や地域においてこの期間でなくてはできない学びの機会がたくさんあります。普段とは違った様々な活動や体験を通して、いろいろな人との出会いやふれ合いもあると思われま

**「乳児は、しっかり肌を離すな。」「幼児は、肌を離して、手を離すな。」**

**「少年は、手を離して、目を離すな。」「青年は、目を離して、心を離すな。」**

これは、かつて教職に就かれていた山口県の教育者である緒方 甫（おがた はじめ）さんが、ご自身の子育ての教訓から得た言葉だそうで、「子育て四訓」といわれる子どもとの向き合い方を示唆した教えです。子どもと向き合うときには、その成長段階を考え、その成長段階では何を大切にするかということを実感的に表していることから、家庭教育のあり方を考えるうえで、多くの共感が得られている言葉として知られています。小中学生は、「肌を離して、手を離すな。」「手を離して、目を離すな。」の時期にあたると思われま

家族はもとより、友達や地域の方々など、他者とのかかわりで社会性は大きくはぐくまれることは言うまでもありません。そう考えると、この夏休みは、子どもの発達段階に応じて、「手を離さずに、肌を離す」、あるいは、「目を離さずに、手を離す」というかかわり方を意識しながら、まずは子どもたちとしっかりと向き合い、親として、学校として、地域社会として、三者がそれぞれの視点から改めて「子育て」のありようを見つめ直し、子どもたちの経験知を増やしていくのにふさわしい機会にできればと思います。この夏休みの子どもたちにとっての様々な体験は、8月以降、元気に学校生活をスタートするための大きな活力を支えるとともに、自立を促す契機に繋がるものと考えま

明日からの夏休みで、子どもたちがそれぞれの家庭や地域において、多くの人とのかかわりを通し、豊かな体験を重ねることで、さらに成長した姿を見せてくれることを楽しみにしています。保護者、地域の皆様方には、子どもたちを見守り、楽しい充実した夏休みを支えていただきますよう、重ねてお願いいたします。今夏は身体にこたえる厳しい暑さが続きますが、皆様のご健康をお祈り申し上げます。